

『証券経済学会年報』執筆要項《研究論文・研究ノート用》

1. タイトル： 著者名、所属および論文タイトルは日本語と英文の両方を記す。
2. 長さ： 投稿論文一編の長さは、200字詰原稿用紙に換算して、研究論文の場合は100枚、研究ノートの場合は60枚を目安とする。ただし、年報に掲載される場合、年報全体のページ数に制限があるため、編集上の都合で「編集委員会」から圧縮を求められることがある。また、冗長である場合、審査の過程で、レフェリーより短縮を求められることがある。
3. 言語： 投稿論文は、横書きで現代国語文（「・・・である」調）で書かれていることを原則とする。なお、英語でも可とする研究論文(7000words)、研究ノート(4000words)。その際、英文のネイティブチェックは投稿者の責任で行なうものとする。
4. 表紙： 投稿する論文には表紙をつける。表紙には「研究論文」または「研究ノート」の区別、「タイトル」、「著者名と所属機関」、「連絡先」のみを記し、頁数には入れない(様式1を参照)。なお、所属機関は次のように記す。
大学教員：学部にも所属の場合 → ○○大学○○学部
大学院にも所属の場合 → ○○大学大学院○○研究科
大学院生：○○大学大学院○○研究科博士(または後期)課程
その他：○○研究所等(企業・団体名)

5. 本文の形式

- (1) タイトル等： 本文は2枚目からとし、2枚目のはじめに、「題名」、「日本語要旨」(300字前後)、「英文要旨」(150 Words 以内) および「キー・ワード (日本語、英語)」(5つ以内) を掲載する。本文に著者名を記入してはならない。頁番号は、この2枚目を第1頁とする(表紙は頁数に入れない)。この書き出し部分については、別紙の様式2を参照されたい。
- (2) 分類方法： 大項目〔1. 2. 3.・・・〕、中項目〔(1)(2)(3)・・・〕、小項目〔(a)(b)(c)・・・〕の順で用い、それぞれなるべく表題をつける。
- (3) 図表：
 - ・タイトルは簡潔に図表の上に明記する。
 - ・番号は図1、図2、表1、表2、・・・とし、初出よりの通し番号とする。(各項目ごとに番号を付さない)
 - ・出所は必ず付記し、資料提供者(会社名)が判明しているものはそれを記し、次の例に従い図表の下に明記する。(外国語の書名はイタリック指定)

<例>

—単行本の場合—

(出所) 相沢幸悦『現代ドイツの金融システム』, 東洋経済, 1993年6月10日。

(出所) Goff, T. G., *Theory and Practice of Investment*, Heinemann, 1997, p. 50.

—雑誌あるいは単行本中の一論文を示す場合—

(出所) 佐賀卓雄「アメリカの証券会社」『証券経済研究』第2号, 1996年7月, 44頁。

(出所) Galai, D., “Tests of Market Efficiency of the Chicago Board Options Exchange,”
The Journal of Business, 1997, Apr, pp. 90-92.

—参考文献を記載している場合—

(出所) 佐賀 [1996], 44頁。

(4) 数式の番号：数式の番号は通しでつける。なお、数式の展開や証明などで、本文だけで分りにくいと思われるときには、審査の便宜のため、本文とは別に掲載したものを同封する。

(5) 注：

・本文中に肩つきに 1)、2)、3)、の形で示し、大項目末尾にまとめる。

<例>……………発行額面は 1,000 ドルである¹⁾。

・審査の関係上、「拙稿」等、執筆者を示唆する形式での注および参考文献の記述は避ける。

・書籍雑誌名の記載方法は、図表の出所例に準ずる。

(6) 参考文献：参考文献は、末尾に一括して記載する。順序は、日本語、外国語の順とし、著者名で、日本語のものは「アイウエオ」順、外国語のものは「ABC」順に並べる。
なお、同じ著者で、同じ発行年の参考文献がある場合は、発行年に、a, b, ……を付けて区別すること。

記載方法は、

単行本の場合：著者、〔発行年〕、題名、出版社名の順とし、題名には日本語の場合は『』を付け、外国語の場合はイタリックにする。

<例>

相沢幸悦 [1993] , 『現代ドイツの金融システム』, 東洋経済。

Goff, T. G. [1997] , *Theory and Practice of Investment*, Heinemann.

雑誌の場合：著者、〔発行年〕、論文題名、巻、号、頁の順にし、日本語の場合、論文題名に「」、雑誌名に『』を付ける。また、外国語の場合、論文題名に“ ”を付け、雑誌名は、イタリックにする。

<例>

佐賀卓雄 [1996], 「アメリカの証券会社」『証券経済研究』第2号, 7月, 44頁。

Galai, D. [1977], "Tests of Market Efficiency of the Chicago Board Options Exchange," *The Journal of Business*, pp. 90-92.

インターネットからダウンロードした場合：

- ・論文の場合：著者、[発行年]、「タイトル」、論文のシリーズ名および号数(例えばディスクッション・ペーパー・シリーズ、No. 1)、論文を掲載している組織(例えば××大学)。(URL)の順にする。

<例>

Healy, P. M. and K. Palepu [2002], "Governance and Intermediation Problems in Capital Markets: Evidence from the Fall of Enron," *Harvard NOM Working Paper No. 02-27*, Harvard Business School. (http://papers.ssrn.com/sol3/delivery.cfm/SSRN_ID325440_code020903590.pdf?abstractid=325440)

- ・ホームページの場合：組織名、「タイトル」(URL)。

<例>

東京証券取引所、「決済制度」(<http://www.tse.or.jp/cash/clearing/index.html>)。

(7) 謝辞：謝辞で先生方の氏名を記す場合は、〇〇〇氏とし(大学などの属はつけない)、表紙に記すこと。

6. ワードプロの使用：本文および表は、DOS対応が可能なソフトを用いたワードプロで打たれたものであることを原則とする。また、図は、写真製版にして、そのまま年報に掲載できるものであることを原則とする。ただし、数式は、手書きでも構わない(年報全体を通して同じ活字にするため、数式だけ出版社で打ち直す)。

7. 投稿時に提出するもの：コピー4部と、審査用の要旨1,500字程度を編集委員長宛に送付する。

8. 最終稿の提出：審査を完了し、掲載可となった場合、完成原稿2部と、CD-RまたはDOS対応のフロッピーを編集委員長に提出する。

9. 原稿料：原稿料は支払われない。ただし、投稿料は不要である。

10. 著作権：掲載された場合、著作権は証券経済学会に移譲される。

様式1：表紙

研究論文(研究論文・研究ノートの区別)

規制緩和と資本市場
(英文タイトル)

〇〇大学大学院〇〇研究科
(英文所属名)

東京 太郎
(英文著者名)

※謝辞を記す場合はこちらに表記すること。

連絡先：東京都××区△△町1-1-1

TEL：

FAX：

様式2：本文書き出し（本文1頁）

研究論文（研究論文・研究ノートの区別）

規制緩和と資本市場 [表題]

要旨：規制緩和は、・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・。
(300字以内) [要旨]

キー・ワード：規制緩和、 資本市場 ・・・・・・・・・・
(5つ以内) [キー・ワード]

Abstract：Deregulation is・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・.
(150Words以内) [要旨]

Keywords：deregulation, capital market,・・・・・・・・・・
(5つ以内) [キー・ワード]

1. 規制緩和の意味

(1) 規制緩和とは

規制緩和は、わが国の経済を・・・・・・・・・・・・・・・・・・。

※このページ以降は本文には著者名を入れないこと。